

一番大切な言葉

平山 智子

広島弁ワールドの旅行会

今から 23 年前、私は九州の宮崎県から学生生活を送るため関東に出てきた。寮生活をはじめて数日後、風邪をひく。心細い思いをしながら、とにかく何か食べなきゃと、食堂のうどんを注文すると、関東風の真っ黒いつゆのうどんが目の前に出てきた。なんだか本当に悲しくなった。宮崎のうどんが恋しい。半べその女子学生の顔を思い出す。

福岡、神奈川、福井、茨城など出身地の異なる親友の中で、私は標準語のようなものをしゃべっていた。最初の数か月くらいは、自分の思いをうまく伝えられない。あー、方言なら、ぴったりくる言葉があるのに。

とっさに「頭にくるよね」なんて出てこない。

「しんきなー。」ムカツとくると宮崎の人は、これを使う。軽い感じ。言葉にしてすっきりする。「よだきい。」面倒くさいけど、やんなきゃいけないときは、この方言。人間は「よだきい」のが普通。のんびりしている。

そして、思ったように上手にできなかったとき、宿題が終わっていないけど学校行く時間になったとき、試合でミスしたとき、とにかく便利な「いっちゃが」。大丈夫、なんてことない、ベストからほど遠いけど OK、OK、YOU ARE OK。

「いっちゃが、いっちゃが」親、おじいちゃん、おばあちゃん、近所の人たち、学校の先生、いろんな人が、小さい頃から声かけてくれた「いっちゃが」。元気がないときは、この言葉が一番効くのに、山と海の向こうにあって、聞こえない。

30 代を過ぎ、交流分析を勉強して、自分を振り返るうちに、この魔法の言葉がどれだけ私の人生を支えていたかに気がついた。だしの香るうどんと同じくらい大好きなものみたいだ。

宮崎で過ごした時間より、東京や福岡で過ごした時間のほうがもう長くなった。世間の情報に右往左往しながら、まじめな子育てをしようとしている私。

息子や娘に伝えておきたい一番大切な言葉を、これを書きながら思い出した。

☆次回は関口裕美さんをお願いします。

(下記 HP のカラー写真をご覧ください)

*グリーン
の胡蝶蘭



*ブルー
の胡蝶蘭

年に 1 度、中学時代の同期生が集まってバス旅行があります。相当以前から行われていたようですが、私が知ったのは 5 年前でした。法事で広島に行ったときに集まってくれた友人たちから誘われたので、その年から参加するようになりました。1 度不参加で今年の 4 回目は城崎温泉と鳥取砂丘や小京都と言われる出石が行程に含まれていて興味をひきました。50 年くらい前に鳥取砂丘は行ったことがありますが、もう 1 度行きたいと思っていたところですので、協会や学会の講座と重なっていましたが、遊びの方を選びました。

瀬戸内海にはたくさんの島がありますが、その中でも 1-2 番の大きな島に小学 2 年の 2 月期に転校して行き、高校 3 年の 1 月期の半ばまでいました。父親の仕事の関係で行った縁もゆかりもない島ですが、私の人格形成の大切な時期を過ごしたところです。

その島を早朝出発したバスは、呉・広島に寄って数人ずつ乗せ、姫路駅で阪神地域の人と私の 5 人が乗り込み、男性 17 名女性 14 名の 31 名で 1 泊 2 日の楽しい旅行となりました。そこからはにぎやかな広島弁ワールドです。旅館の人たちが年齢を知って、あまりに元気が良いのでびっくりしていたと翌日ガイドさんから聞きましたが、本当にみんな元気いっぱい楽しい仲間なのです。年相応に病氣も経験し、女性の半分は未亡人なのですが、気持ちは中学生です。

宴会の最後は恒例の“星影のワルツ”を歌いながら全員が手をつないでぐるぐる歩くのですが、さっと女性の間に入る人もいるのですが、それができない人もあるようで、寝る前に温泉に行くと、別の部屋の人から「治ちゃん! あした K ちゃんとなつないじゃってえやあ」「私じゃいけん言うんよ。なんで私じゃいけんのん? 言うたら、あんたじゃ電流が走らんいうんよ」脱衣場にはその他のお客さんもいましたが、みんなで大笑いです。

翌日バスの中でもこの話の続きがあったようで、後ろの座席の方は大盛り上がりでした。私は 1 番前にいたので笑い声しか聞こえなかったのですが、「治ちゃん後ろにきんさい! K ちゃんの隣に座ってやってえやあ」とひっぱられて行き、彼と握手をし隣に座ったのです。「K ちゃんどうするん。今夜寝られんよ」と話は続き、尼崎でお花屋を営んでいる実直な彼は、みんなの餌食となり、とどめが「こりやお礼に花でも送らにゃいけんねえ。胡蝶蘭でええわ。最近ブルーの胡蝶蘭があると彼が言うと、「それがええわ。胡蝶蘭ね。ブルーね」と、まわりの女性が勝手にはやしたてて、可哀そうに送らざるをえない状況をつくりあげてしまったのです。左の胡蝶蘭が翌日本当に届きました。